

コロナ禍における自動車産業の今後について

21911051 井上寛太
21911051ki@tama.ac.jp

新型コロナウイルスの感染拡大によって、新車を購入した際に新車まで時間がかかることが問題となっている。その原因について、世界的な半導体不足や海外におけるロックダウンなどの影響により、部品供給の遅延がある。このため、1年から4年ほど納車に時間がかかる場合がある。

本研究では、これらの原因について、さらには今後の傾向について検討することにした。そこで、コロナ禍における自動車産業の現状、新車や中古車の納期情報、各日本車メーカーの販売台数などを用いて研究対象にすることにした。

研究方法としては、「2021 自動車統計データブック」から乗用車の新車登録台数や「WSTS 日本協議会」半導体の日本への輸出数などのデータを取り、それらを比較、また相関分析を用いた。

現時点では、半導体の輸入と自動車の新車登録台数は正の相関があることが分かった。そこで、今後についても確認をすることにした。

半導体 (japan) を `semic`、乗用車を `car` としたところ、桁数の違うふたつの変数を比較するために、それぞれの変数において、平均を引いて、標準偏差で割るという標準化を行った。